

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3639561号

(P3639561)

(45) 発行日 平成17年4月20日(2005.4.20)

(24) 登録日 平成17年1月21日(2005.1.21)

(51) Int.Cl.⁷

F I

A 6 1 B 1/00

A 6 1 B 1/00

3 0 0 P

G 0 2 B 23/24

G 0 2 B 23/24

A

G 0 2 B 23/24

B

請求項の数 1 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2002-105348 (P2002-105348)	(73) 特許権者	000000376
(22) 出願日	平成14年4月8日(2002.4.8)		オリンパス株式会社
(65) 公開番号	特開2003-299610 (P2003-299610A)		東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
(43) 公開日	平成15年10月21日(2003.10.21)	(74) 代理人	100058479
審査請求日	平成14年4月8日(2002.4.8)		弁理士 鈴江 武彦
		(74) 代理人	100084618
			弁理士 村松 貞男
		(74) 代理人	100068814
			弁理士 坪井 淳
		(74) 代理人	100091351
			弁理士 河野 哲
		(74) 代理人	100100952
			弁理士 風間 鉄也

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内視鏡用フード

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

内視鏡挿入部の先端部に周方向の取付位置が適切な向きに位置決めされた状態で圧入により装着される筒状のフード本体の先端に内視鏡の観察視野方向に突出する突出部を有する内視鏡用フードであって、

前記フード本体が適正に装着可能な第1の内視鏡挿入部とは異なる大きさの第2の内視鏡挿入部の先端部に圧入により装着された場合に、内視鏡観察像内に映る前記突出部の領域を増大させて不適正な取付状態を警告する取付状態確認手段を設けたことを特徴とする内視鏡用フード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、内視鏡挿入部の先端部に圧入により適切な向きに装着される筒状のフード本体の先端に内視鏡の観察視野方向に突出する突出部を有する内視鏡用フードに関する。

【0002】

【従来の技術】

内視鏡観察像の焦点合わせを容易にするとともに、所定の位置を安定して観察するために、内視鏡挿入部の先端部に筒状の内視鏡用フードを取付けて観察することがある。

【0003】

このようなフードとして、例えば特開2001-224550号公報には、内視鏡観察画

像上にフード本体の先端側の観察視野方向に突出した突出部が映ってしまうことを防止する技術が開示されている。この技術のフードは、突出部の少なくとも一部を観察視野の外縁に沿って角張った形状、あるいは、観察視野を遮らないように部分的に先端が切り削がれた形状となっている。

【 0 0 0 4 】

また、フードは一般にゴム材などの柔らかい素材によってフード本体が形成されている。そして、フードを内視鏡に固定する手段としては、フード本体を弾性変形させてフード本体の嵌合穴部に内視鏡挿入部の先端部を圧入することにより固定することが行われている。

【 0 0 0 5 】

そのため、内視鏡挿入部の先端部に外嵌されるフード本体の嵌合穴部の内径寸法が、挿入部先端部の外径寸法に対して適正な寸法に設定されている適正な大きさのフード以外の不適正な大きさのフードも取付けることができる場合がある。例えばフードが装着される挿入部先端部の径が適正な寸法より太径過ぎる場合や細径過ぎる場合であってもフードの素材が弾性変形して装着することができる。

【 0 0 0 6 】

【 発明が解決しようとする課題 】

上述のように、内視鏡が太径過ぎる場合、フードの取付作業時にフード本体に対して内視鏡挿入部の先端部から過度な力を受ける。一方、フード装着状態では、フード本体の内視鏡挿入部の先端部への圧着力が強く、フードを取外し難くなる。したがって、フードを取外すときに内視鏡挿入部の先端部を壊してしまうおそれがある。

【 0 0 0 7 】

一方、内視鏡が細径過ぎる場合、内視鏡挿入部に対するフード本体の締め付け力が弱くなるので、使用中に内視鏡挿入部からフードが外れるおそれがある。

【 0 0 0 8 】

さらに、上述のようにフードが弾性変形し、適正な径を有する内視鏡挿入部とは異なる径（機種）の内視鏡挿入部の先端部にフードを装着するときに、フードの変形量を考慮して装着可能な内視鏡挿入部径であるか否かを判断することは困難である。また、所定の内視鏡挿入部の先端部用に作成したフードであっても、他の内視鏡挿入部の先端部に適合することもあり、任意の内視鏡挿入部に対するフードの適合性を判断することは難しい。

【 0 0 0 9 】

この発明はこのような課題を解決するためになされたもので、フード本体が許容範囲内の径を有する内視鏡挿入部の先端部に装着されているか否かを容易に認識することができる内視鏡用フードを提供することを目的としている。

【 0 0 1 0 】

【 課題を解決するための手段 】

上記課題を解決するために、この発明の内視鏡挿入部の先端部に周方向の取付位置が適切な向きに位置決めされた状態で圧入により装着される筒状のフード本体の先端に内視鏡の観察視野方向に突出する突出部を有する内視鏡用フードにあっては、前記フード本体が適正に装着可能な第1の内視鏡挿入部とは異なる大きさの第2の内視鏡挿入部の先端部に圧入により装着された場合に、内視鏡観察像内に映る前記突出部の領域を増大させて不適正な取付状態を警告する取付状態確認手段を設けたことを特徴とするものである。

【 0 0 1 1 】

【 発明の実施の形態 】

以下、図面を参照しながらこの発明の好ましい実施の形態について説明する。

【 0 0 1 2 】

（構成）

図1および図2は正面方向を直視する直視型の内視鏡1の先端部分を示すものである。図1に示すように、内視鏡1の挿入部5には、硬質な先端部2と、この先端部2の基端部に接続され、湾曲可能な湾曲部3と、この湾曲部3の基端部に接続され、可撓性を有する軟

10

20

30

40

50

性部 4 とを備えている。また、先端部 2 の端面、すなわち挿入部 5 の先端面 2 a は先端部 2 の軸方向に対して直交して平坦に形成されている。なお、先端部 2 と湾曲部 3 とは第 1 の接続部 7 で接続され、湾曲部 3 と軟性部 4 とは第 2 の接続部 8 で接続されている。

【 0 0 1 3 】

このような挿入部 5 には、例えば図 1 中に破線で示す処置具挿通チャンネル 6、先端に後述する照明レンズ 1 9 を有する照明光学系、先端に対物レンズ 9 を有する観察光学系（図示せず）、さらには、液体や気体を対物レンズ 9 に向けて噴射可能な後述するノズル 2 0 が先端に装着された送気・送水路（図示せず）など、複数の要素が挿通されている。

【 0 0 1 4 】

そして、図 2 に示すように、内視鏡 1（第 1 の内視鏡 1 a）の先端部 2 の先端面 2 a には、この先端面 2 a 上で一般に最も大きい要素である処置具挿通チャンネル 6 が先端面 2 a の中心よりもやや下方側に開口して設けられている。さらに、この先端面 2 a には、一対の照明レンズ 1 9 と円形状の対物レンズ 9 とが設けられている。照明レンズ 1 9 は、図 2 中で、先端面 2 a の中心に対して左右方向、かつ処置具挿通チャンネル 6 よりも上方側に 1 つずつ配設されている。また、対物レンズ 9 は、中心に対してやや上方側に配設されている。この対物レンズ 9 は、図 2 中で破線で示すようなマスクがかけられている。なお、先端面 2 a には、さらに送気・送水用ノズル 2 0 が突設されている。

【 0 0 1 5 】

図 3 に示すように、モニター装置 1 3 上には、ほぼ矩形状の観察画像表示部 1 4 が形成されている。この観察画像表示部 1 4 に表示される対物レンズ 9 の視野領域は、対辺方向の長さが L_1 で、対角方向の長さが L_2 で、これら L_1 、 L_2 の長さは互いに異なっている（ $L_1 < L_2$ ）。このため、図 1 に示すように、この対物レンズ 9 の視野角は対辺方向では A_1 となっている。また、対角方向では A_2 となっており、これら視野角 A_1 、 A_2 の可視領域が異なっている（ $A_1 < A_2$ ）。

【 0 0 1 6 】

ところで、この実施の形態では、この内視鏡 1（第 1 の内視鏡 1 a）の対物レンズ 9 の対辺方向の最大視野角 A_1 を例えば 140° であるとする。また、対物レンズ 9 の中心と先端部 2 の外周部との間の距離を例えば 3.2 mm であるとする。

【 0 0 1 7 】

また、図 1 に示すように、内視鏡挿入部 5 の先端部 2 には、内視鏡用フード 1 0 が装着される。このフード 1 0 は、筒状のフード本体 1 0 a を備えている。このフード本体 1 0 a の筒内には、このフード本体 1 0 a の後部側の圧入固定部 1 0 b と、この圧入固定部 1 0 b の先端側で、圧入固定部 1 0 b の内周部よりも小径の内周部を有する小径部 1 0 c とが形成されている。また、圧入固定部 1 0 b と小径部 1 0 c とのそれぞれの内周部の内径の段差部は、内視鏡挿入部 5 の先端部 2 の先端面 2 a が突き当てられる突き当て部 1 1 となっている。この突き当て部 1 1 よりも後端側の圧入固定部の内周部の内径は均一であることが好適で、その径は後述する d である。

【 0 0 1 8 】

一方、小径部 1 0 c は観察視野方向に突出して先端が生体組織に当接する突出部となっている。また、この小径部 1 0 c の先端には、対物レンズ 9 の可視領域にフード 1 0 の小径部 1 0 c の内周部（外縁部）が映ることを防ぐ 1 つまたは複数の凹部 1 2 が形成されている。この実施の形態の内視鏡 1（第 1 の内視鏡 1 a）に適正に装着可能なフード本体 1 0 a では、例えば 2 つの凹部 1 2 が形成されている。なお、凹部 1 2 は、対物レンズ 9 が先端面 2 a のどの位置に配置されているかによってその位置が異なる。すなわち、この実施の形態にかかるフード 1 0 は先端部 2 の周方向に対して方向性を有する。

【 0 0 1 9 】

なお、湾曲部 3 の湾曲障害を防止するため、このフード 1 0 と先端部 2 とが接触する挿入部 5 の長手方向の長さは、図 1 に示すように、先端部 2 の先端面 2 a からの硬性部の長さ L よりも短く形成されている。すなわち、硬性部の長さよりもフード 1 0 の突き当て部 1 1 から後端までの間の長さが短く形成されている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 0 】

さらに、図 4 の (A) に示すように、内視鏡用フード 1 0 の外周面には、内視鏡挿入部 5 の先端部 2 の所定の位置に周方向に位置決めして圧入するため、指標 4 9 が設けられている。この実施の形態では、指標 4 9 としては、フード本体 1 0 a の小径部 1 0 c から圧入固定部 1 0 b にかけての外周部の一部が凹部として形成されている。また、この指標 4 9 は、フード本体 1 0 a の他の部分とは異なる色に彩色してあることが好ましい。なお、この圧入固定部 1 0 b の内径を d とする。

【 0 0 2 1 】

そして、図 4 の (B) に示すように、このフード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d に対して適切な内視鏡挿入部 (第 1 の内視鏡挿入部) 5 a の先端部 2 の外径は $D 1$ である。この外径 $D 1$ はフード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d よりも大きい。さらに、第 1 の接続部 7 の外径は $D 1 \text{ max}$ である。この外径 $D 1 \text{ max}$ は先端部 2 の外径 $D 1$ よりも大きい ($D 1 > d$, $D 1 \text{ max} > d$)。挿入部先端部 2 にこのような外径 $D 1$ を有する内視鏡を第 1 の内視鏡 1 a とする。

10

【 0 0 2 2 】

また、図 4 の (C) に示すように、フード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d に対して細径の内視鏡挿入部 (第 2 の内視鏡挿入部) 5 b の先端部 2 の外径は例えば $D 2$ である。この外径 $D 2$ はフード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d よりも小さい。さらに、第 1 の接続部 7 の外径は $D 2 \text{ max}$ である。この外径 $D 2 \text{ max}$ はフード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d よりも大きい ($D 2 < d$, $D 2 \text{ max} > d$)。挿入部先端部 2 にこのような外径 $D 2$ を有する内視鏡を第 2 の内視鏡 1 b とする。

20

【 0 0 2 3 】

さらに、図 4 の (D) に示すように、フード 1 0 の圧入固定部 1 0 b の内径 d に対して太径の内視鏡挿入部 (第 3 の内視鏡挿入部) 5 c の先端部 2 の外径は例えば $D 3$ である。この外径 $D 3$ は第 1 の内視鏡 1 a の先端部 2 の外径 $D 1$ よりも大きい。さらに、第 1 の接続部 7 の外径は $D 3 \text{ max}$ である。この外径 $D 3 \text{ max}$ は先端部 2 の外径 $D 3$ よりも大きい ($D 3 > d$, $D 3 \text{ max} > d$)。挿入部先端部 2 にこのような外径 $D 3$ を有する内視鏡を第 3 の内視鏡 1 c とする。

【 0 0 2 4 】

また、第 2 および第 3 の内視鏡 1 b , 1 c の内視鏡挿入部 5 b , 5 c の先端部 2 の先端面 2 a のレイアウトは、それぞれ図 5 の (A) および (B) に図示されている。

30

【 0 0 2 5 】

図 5 の (A) に示すように、第 2 の内視鏡 1 b の内視鏡挿入部 5 b の先端部 2 の先端面 2 a には、この先端面 2 a 上で一般に最も大きい要素である処置具挿通チャンネル 6 が先端面 2 a の中心よりもやや下方側でかつやや左方側に偏って設けられている。さらに、この先端面 2 a には、この実施の形態では、一对の照明レンズ 1 9 と、円形状の対物レンズ 9 とが設けられている。照明レンズ 1 9 は、図 5 の (A) 中で、先端面 2 a の中心に対して左右方向でかつ、一方が処置具挿通チャンネル 6 の左上方側に、他方が右側に配設されている。また、対物レンズ 9 は、中心に対してやや上方側に配設されている。さらに、先端面 2 a には、送気・送水用ノズル 2 0 が突設されている。なお、この第 2 の内視鏡 1 b の対辺方向の最大視野角 $A 1$ を例えば 140° であるとする。また、対物レンズ 9 の中心と先端部 2 の外周部との間の距離を例えば 2.8 mm であるとする。

40

【 0 0 2 6 】

図 5 の (B) に示すように、第 3 の内視鏡 1 c の内視鏡挿入部 5 c の先端部 2 の先端面 2 a には、この先端面 2 a 上で一般に最も大きい要素である処置具挿通チャンネル 6 が先端面 2 a の中心よりもやや下方側に設けられている。さらに、この先端面 2 a には、一对の照明レンズ 1 9 と円形状の対物レンズ 9 とが設けられている。照明レンズ 1 9 は、図 5 の (B) 中で、先端面 2 a の中心に対して左右方向でかつ処置具挿通チャンネル 6 よりも上方側に配設されている。また、対物レンズ 9 は、中心に対してやや上方側に配設されている。さらに、先端面 2 a には、送気・送水用ノズル 2 0 が突設されている。なお、この第

50

3の内視鏡1cの対辺方向の最大視野角A1を例えば170°であるとする。また、対物レンズ9の中心と先端部2の外周部との間の距離を例えば3.6mmであるとする。

【0027】

なお、上述したフード本体10aの外周部に設けた指標49と同様に、第1ないし第3の内視鏡1a, 1b, 1cの挿入部5a, 5b, 5cの先端部2に対しても例えば色彩を有していたり、凹凸状の指標(図示せず)を設けていることが好ましい。

【0028】

(作用)

次に、このような第1ないし第3の内視鏡1a, 1b, 1cに第1の内視鏡1a用に形成されたフード10をそれぞれの内視鏡挿入部5a, 5b, 5cの先端部2に対して最も適正に装着したときの作用について説明する。

【0029】

図4の(A)および(B)に示すように、フード10は指標49が第1の内視鏡1aの挿入部5aの先端部2に設けられた指標に対して位置合わせして装着される。すなわち、フード10は第1の内視鏡1aの挿入部5aの先端部2の所望の位置に所望の向きに装着される。また、フード10の装着による先端部2の外周部、および先端部2と湾曲部3との第1の接続部7にかかる圧力はほぼ均一となる。このとき、図3に示すように、モニター装置13の観察画像表示部14には、小径部10cが映し出されない。

【0030】

次に、図4の(A)および(C)に示すように、第2の内視鏡1bも第1の内視鏡1aと同様に、フード10は指標49が第2の内視鏡1bの挿入部5bの先端部2に設けられた指標に対して位置合わせして装着される。すなわち、フード10が第2の内視鏡1bの挿入部5bの先端部2の所望の位置に所望の向きに装着される。また、フード本体10aの圧入固定部10bの内周面は、挿入部5bの先端部2と湾曲部3との第1の接続部7でのみ接触する。このため、フード10の密着性が悪い。このとき、第1の内視鏡1aと比較すると、対物レンズ9の中心と先端部2の外周部との間の距離の差が0.4mmあるので、図6に示すモニター装置13の観察画像表示部14には、小径部10cの外縁の一部18が映し出される。すなわち、適正な取付状態のときに比べてこの小径部10cの外縁部が映し出される領域を増大させる。したがって、フード10を不適正な取付状態で装着すると観察画像上で小径部10cが映し出される領域を増大させて不適正な取付けであることを認識させて警告する取付状態確認手段として機能する。

【0031】

そして、図4の(A)および(D)に示すように、第3の内視鏡1cも第1の内視鏡1aと同様に、フード10は指標49が第3の内視鏡1cの挿入部5cの先端部2に設けられた指標に対して位置合わせして装着される。すなわち、フード10が第3の内視鏡1cの挿入部5cの先端部2の所望の位置に所望の向きに装着される。また、フード10の内周面は、フード10の弾性変形の限界付近まで変形されて挿入部5cの先端部2の外周部、および先端部2と湾曲部3との第1の接続部7に接触する。このため、特に先端部2の先端面2aと外周部との境界付近に大きな力が加わる。フード10は、小径部10cが内側に萎む方向に弾性変形し、圧入固定部10bが上述の境界付近と第1の接続部7とに接触する。したがって、先端部2の外周面には、圧着力が殆ど伝わらない。あるいは、フード本体10aは先端部2の外周面および第1の接続部7に強固な圧着力を持って装着される。このとき、第1の内視鏡1aと比較すると、第1の内視鏡1aと第3の内視鏡1cとの対辺方向の最大視野角A1の差が30°あるので、図6に示すモニター装置13の観察画像表示部14には、小径部10cの外縁の一部が映し出される。すなわち、適正な取付状態のときに比べて小径部10cが映し出される領域を増大させる。このため、フード10を不適正な取付状態で装着すると観察画像上で警告する取付状態確認手段として機能する。

【0032】

したがって、このフード10に対して許容範囲内にある径の第1の内視鏡挿入部5aの先

10

20

30

40

50

端部 2 では、対物レンズ 9 を最大視野角 A 1 に設定しても画面上に小径部 1 0 c が映らないようになっている。また、このフード 1 0 に対して許容範囲外にある径の第 2 および第 3 の内視鏡挿入部 5 b , 5 c の先端部 2 では、対物レンズ 9 を最大視野角 A 1 に設定すると画面上に小径部 1 0 c の外縁部が映るようになっている。

【 0 0 3 3 】

(効果)

したがって、フード 1 0 が適正な径の第 1 の内視鏡挿入部 5 a の先端部 2 に装着されているか否かを容易に認識することができる。

【 0 0 3 4 】

なお、この実施の形態では、フード 1 0 が適切な径の第 1 の内視鏡挿入部 5 a の先端部 2 に装着された場合には、小径部 1 0 c の外縁部が観察画像表示部 1 4 上に映らないとして説明したが、小径部 1 0 c の外縁部が観察画像表示部 1 4 の外縁に多少映るようにフード 1 0 の小径部 1 0 c を形成しても構わない。

【 0 0 3 5 】

また、上述した距離の長さや対辺方向の最大視野角 A 1 などの値は一例であって、他の値であっても、各種の条件を満たした小径部 (突出部) 1 0 c が形成されていればよい。

【 0 0 3 6 】

また、この実施の形態では、指標 4 9 を用いてフード 1 0 と内視鏡挿入部 5 の先端部 2 との間の位置を最適に装着されるようにした。この他、図 7 の (A) および (B) に示すように、例えばフード 1 0 の後端部近傍に設けられたフード本体 1 0 a と一体型の位置合わせ部材 1 5 が例えば処置具挿通チャンネル 6 内に配設されている。そして、この状態からさらに圧入すると、位置合わせ部材 1 5 が先端面 2 a から排除されて先端部 2 とフード 1 0 の内周部との間に弾性変形されて折り畳まれて収納されるようにしても良い。このようにすると、フード 1 0 を内視鏡挿入部 5 の先端部 2 の周方向の所望の位置に、より確実に装着することができる。

【 0 0 3 7 】

これまで、一実施の形態について図面を参照しながら具体的に説明したが、この発明は、上述した実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で行なわれるすべての実施を含む。

【 0 0 3 8 】

上記説明によれば、下記の事項の発明が得られる。また、各項の組み合わせも可能である。

【 0 0 3 9 】

[付記]

(付記項 1) 内視鏡に着脱自在の内視鏡用フード部材で、このフード部材は所定の回転方向で圧入により第 1 の内視鏡の先端部に位置決め装着したときに、内視鏡先端より突出するフード部材の突出部が内視鏡観察画像内に最も入らないような突出部形状をしている内視鏡フード部材において、前記第 1 の内視鏡とはフード部材を装着する装着部の外径が異なり、かつ、その装着部の少なくとも一部の外径は前記フード部材側の装着部内径よりは大きい外径を有する第 2 の内視鏡に、前記フード部材を装着すると、第 1 の内視鏡への装着時よりも、フード部材の突出部が内視鏡観察画像内に多く出現するような突出部形状を有する内視鏡用フード部材。

【 0 0 4 0 】

(付記項 2) 付記項 1 に記載の内視鏡用フード部材であって、フード部材を第 1 の内視鏡に装着したときは、内視鏡観察画像内に突出部は全く入らず、第 2 の内視鏡に装着したときに、内視鏡観察画像に入るようにした。

【 0 0 4 1 】

(付記項 3) 付記項 1 に記載の内視鏡用フード部材であって、第 2 の内視鏡は、第 1 の内視鏡よりも細径の内視鏡である。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 2 】

(付記項 4) 付記項 1 に記載の内視鏡用フード部材であって、第 2 の内視鏡は、第 1 の内視鏡よりも太径の内視鏡である。

【 0 0 4 3 】

【 発明の効果 】

以上説明したように、この発明によれば、適切な径の内視鏡挿入部の先端部に装着されているか否かを容易に認識することができる内視鏡用フードを提供することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 内視鏡先端部にフードを取付けた状態を示す概略的な部分断面図。

【 図 2 】 フードを装着した内視鏡先端部を先端方向から見た概略的な正面図。

10

【 図 3 】 図 1 に示す内視鏡先端部からの観察画像を示す概略図。

【 図 4 】 任意の内径を有する内視鏡用フードに対して実線矢印で示す適正な径を有する内視鏡挿入部にフードを装着するときの概略的な説明図、並びに、破線矢印で示す不適正な径を有する内視鏡挿入部にフードを装着するときの概略的な説明図。

【 図 5 】 (A) は、図 4 の (C) に示す内視鏡挿入部の先端部の正面図、(B) は図 4 の (D) に示す内視鏡挿入部の先端部の正面図。

【 図 6 】 フードを装着した内視鏡挿入部の先端部から対物レンズで観察したときにフードの小径部の縁部が観察画像表示部に映った状態を示す概略図。

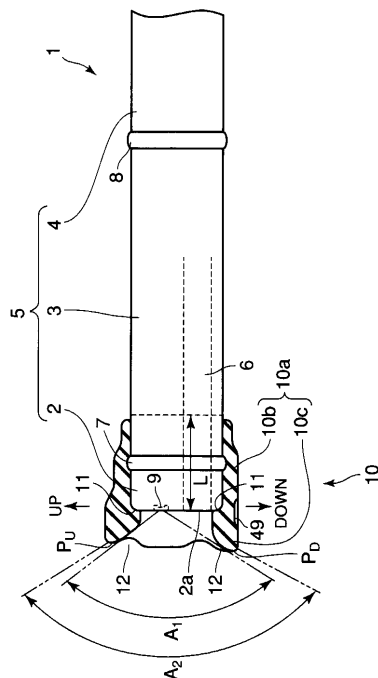
【 図 7 】 (A) はフードの位置合わせ部材を処置具挿通チャンネルに相對させた状態を示す概略図、(B) は位置合わせ部材を用いて内視鏡挿入部の先端部にフードを装着した状態を示す概略図。

20

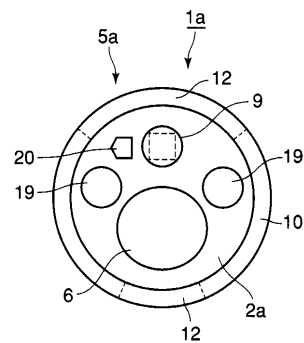
【 符号の説明 】

2 ... 挿入部先端部、2 a ... 先端面、5 ... 内視鏡挿入部、7 ... 接続部、9 ... 対物レンズ、10 ... 内視鏡用フード、10 a ... フード本体、10 b ... 突出部、12 ... 凹部、13 ... モニター装置、14 ... 観察画像表示部

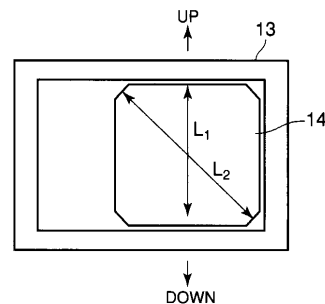
【 図 1 】



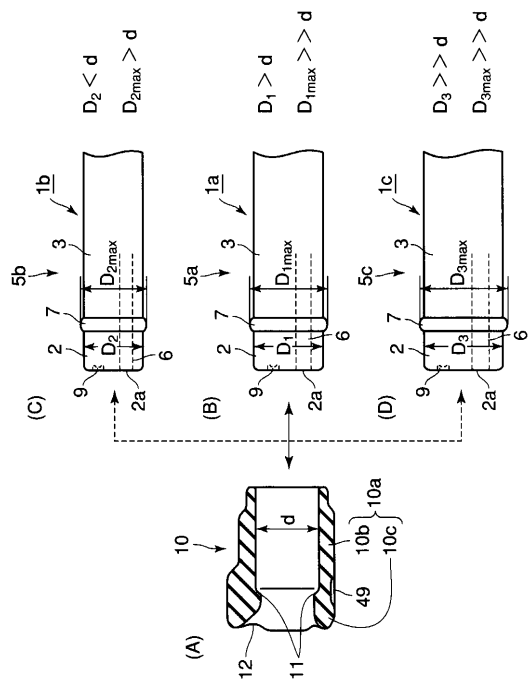
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



フロントページの続き

(72)発明者 森山 宏樹

東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリンパス光学工業株式会社内

審査官 安田 明央

(56)参考文献 特開平 1 1 - 3 1 3 7 9 5 (J P , A)

特開平 8 - 8 9 4 7 4 (J P , A)

特開 2 0 0 3 - 1 1 6 7 7 2 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B 名)

A61B 1/00-1/32

G02B 23/24-23/26

专利名称(译)	内窥镜罩		
公开(公告)号	JP3639561B2	公开(公告)日	2005-04-20
申请号	JP2002105348	申请日	2002-04-08
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯株式会社		
申请(专利权)人(译)	オリンパス光学工業株式会社		
当前申请(专利权)人(译)	奥林巴斯公司		
[标]发明人	森山宏樹		
发明人	森山 宏樹		
IPC分类号	G02B23/24 A61B1/00 A61B1/04		
CPC分类号	A61B1/00089 A61B1/00055 A61B1/00101		
FI分类号	A61B1/00.300.P G02B23/24.A G02B23/24.B A61B1/00.651 A61B1/00.715		
F-TERM分类号	2H040/BA00 2H040/DA12 2H040/GA02 2H040/GA11 4C061/CC06 4C061/FF37 4C061/JJ17 4C061/NN05 4C061/WW11 4C161/CC06 4C161/FF37 4C161/JJ17 4C161/NN05 4C161/WW11		
代理人(译)	坪井淳 河野 哲		
其他公开文献	JP2003299610A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为内窥镜提供罩子，允许容易地识别安装到具有适当直径的内窥镜插入部分的远端。ŹSOLUTION：用于内窥镜1的罩10具有突出到内窥镜1的观察视野方向的突出部10c，在通过按压安装的管状罩体10a的尖端中，在周向安装的状态下位置在内窥镜插入部分5的远端2中以适当的方向定位。罩10设置有安装状态确认装置，通过增加在内窥镜观察中反射的突出部分10c的面积来警告不正确的安装状态。当罩体10a安装在第二内窥镜插入部分5b的远端中时的图像，第二内窥镜插入部分5b具有与第一内窥镜插入部分5a不同的尺寸，从而允许适当地安装罩体10a。Ź

